

第 4 回 産業応用部門論文委員会主査会議議事録（案）

1. 平成18年 7月18日（火）13:30-15:00
2. 場所 電気学会
3. 出席者(敬称略)
深尾(編修長),久保田(編修広報委員会副委員長, 明治大学), 岩路(D2副主査, 日立製作所), 井出(D3主査, 日立製作所), 清水(IPEC特集号ゲストエディタ, 首都大学東京), 松井(前D1主査, 東京工芸大学)
4. 提出資料
 - 4-0 第 4 回産業応用部門論文委員会主査会 議題(深尾)
 - 4-1 第 3 回産業応用部門論文委員会主査会議事録(案)
 - 4-2 D2幹事増員(コントロール関係)について(D2泉井, 代理説明: 岩路)
 - 4-3 産業応用部門誌 論文査読マニュアル(修正案Ver.2) (松井)
 - 4-4 特集論文運営マニュアル(案) Ver.4(清水)
 - 4-5 共通英文論文誌 一般投稿論文・レター の査読について(久保田)
 - 4-6-1 共通英文誌特集号スケジュール(案)(久保田)
 - 4-6-2 4-6-1の添付資料2
 - 4-6-3 4-6-1の添付資料4
5. 議事録
 - 5.1 資料4-1, 5.6の項目について
 - ・前回議論した「第 3 の査読者の取り扱い」に関して, 「3 人目の査読者に経緯を説明する云々」との記載があるが, 具体的に何をどうするかを決めてない。このままでは, 何も変わらないので, どのようにするのかを決めたい。また, このようなことが議論されていることを, HP 等で伝える必要もある。
 - 5.2 資料4-2について
 - (1) D2泉井主査作成の資料4-2を岩路が説明。D2では, 投稿される論文の分野に偏りがある。コントロールに関しては, 現在, 幹事 2 名が担当しているが, まだ足りない。もう 1 名の幹事増員を希望。
 - (2) 技術委員会からの幹事は, 最低数「1」とし, 論文数に応じて幹事数を調整してよい, というのが元々の取り決めにあった。増員は特に問題はない。むしろ, 早急に増員して欲しい。
 - (3) D2は, 新幹事をなるべく早く推薦して欲しい。メールで審議する。
 - (4) 技術委員会と, 投稿論文数の関係を, D1, D3についても調査してもらい, 編修長宛に提出する(主査に依頼)。役員会(8月)にて, 「論文委員会から見た技術委員会のアクティビティ」として報告する。必ずしも論文数がアクティビティのすべてではないが, 「技術委員会としてどのような活動をしているのか」を, 他の会員に分かるように示すべきであると考える。

5.3 資料4-3

論文査読マニュアルについて、修正案Ver.2を松井が説明。

(1) 議論

(1-1) 二重投稿の問題

- ・電気学会に掲載された論文が、IEEEにも掲載された。しかも著者が違っていた例がある。
- ・類似内容(試験結果の追加程度)で、海外の論文にも掲載された場合は、どう扱うのか？。
- ・IEEEは、IEEJ transaction に掲載決定になった時点で、既に電気学会論文誌に掲載が決まっていたような場合、その旨を伝えれば、ほとんど同じ内容の論文の掲載が認められている例がある。
- ・「二重投稿」、あるいはそれに近い投稿論文をどのように扱っていくか？。アドホック委員会でも審議する。

(1-2) 著者用のチェックリストについて

- ・「D」判定の理由で、「論文の主旨が不明」というものが多い。例えば、自分自身の論文ばかりが参照されている論文など。チェック項目として、
著者以外の論文も含めて、必要にして十分な文献が参照されているか？
などの項目を加えてはどうか？
- ・式の導出など、論旨にかかわる部分については、読者が導出できる程度に噛み砕く必要がある。そのようなチェック項目も加えてはどうか？
- ・図の説明、図の書き方(目盛り、軸の説明等)が、電気学会の指示に従っていないものが多い。
「フォーマットを電気学会のものにあわせる」などのチェック項目も加えては？。

(1-3) 判定基準(A~D)について

- ・D部門としては、この案で進めたい。
- ・「B判定」は、「掲載決定・修正奨励」であり、「条件付き掲載」ではない。
- ・「C判定」は、Mandatory Changeであり、それ以外は「D判定」とする。

(2) その他

- ・添付ファイルにてメンバーに配布するので、メールで議論したい。

5.4 資料4-4 について

特集論文運営マニュアル(案) Ver.4について清水IPECゲストエディタより説明。

(1) 誤字の指摘

- ・2-1掲載する論文集 掲載する論文
- ・3-4 文章を修正
- ・5-1 (e)主査会議 主査会
- ・5-2 開催 掲載

(2) 議論

(2-1)ゲストエディタの基本的な役割は、主査と同等であり、主査としての権限も与える。
主査会にも出席してもらう。

(2-2) 国際会議開催時に論文が集中する問題

- ・現在、ICEMSの投稿論文を、そのまま電気学会に投稿できるようにして、学会への投稿を促している。この結果、英文論文が集中するものと予想される。ただし、英文論文に対し、電子投稿システムが対応していないため、代理投稿となる。代理投稿は、編修長補

佐がやることになり、件数によっては処理しきれない可能性がある。

- ・このようなケースにおいては、基本的には、ゲストエディタを立てるのが理想。ICEMSの三木先生に検討をお願いします。件数にもよるが、編修長補佐では、対応できない。

5.5 資料4-5について

共通英文論文誌 一般投稿論文・レター の査読について久保田先生が説明。

- (1) 共通英文論文誌の判定基準は、A,B,Dの3段階。
- (2) 共通英文紙の掲載料は「半額」というメリットがある。

5.6 資料4-6-1～4-6-3について

共通英文誌特集号スケジュール(案)について久保田先生が説明。

- (1) 2007年3月共通英文誌特集号の論文について
 - ・「査読する」ことを前提に、スケジュールを作成
 - ・「解説論文」ではあるが、論文形態のものであり、査読を行う。
 - ・来年以降、誰が企画するのか?。今回は林先生にお願いした。
特集号の企画は、毎年3月号になる。2008年3月の特集号に向けて、9月ぐらいから準備を始める必要あり。
- (2) 資料4-6-2について
 - ・7-(2)、「著作権にご留意下さい。」は、意味がわかり難い。「著作権者への確認をお願いします。」等の記述の方がよいのではないか?

5.7 その他

- (1) D部門大会での意見交換会。D3井出主査が準備中。
- (2) 論文査読結果の判断基準(5.3(2-3))を明確化して、徹底する必要がある。
- (3) 査読依頼に関して。査読者から受諾のメールがないため、受諾したのか、メールを見落としているのか、不安な場合がある。受諾確認ができるようにシステムを変更できれば、非常に有難い。
- (4) 今回の提出資料で修正必要なものについては、修正後、メール上で審議する。

6. 次回予定 10月頃を予定

以上